別紙 1

世界的先進都市を目指すジョホールバル市

-「WORLD CITY 2020 に向けた国際会議」-

６月 25 日、マレーシアのジョホールバル市で、「WORLD CITY2020 に向けた国際会議」が開かれました。ジョホールバル市主催で行われた本会議は、同市が 2020 年までに世界的先進都市となることを目標に実施されたものです。会議にはマレーシア国内から著名人も出席し、世界的先進都市となるためには何が必要かといったディスカッションが行われました。海外からのパネリスト等も招かれ、日本の自治体からは富山市と京都市が参加し、先進的な日本の事例を紹介しました。

■ジョホールバル市概要

ジョホール州の州都ジョホールバル市は人口 134 万人、マレーシアの首都クアラルンプールに次ぐ第二の都市です。マレー半島の最南端に位置し、シンガポールとは、コーズウェイとセカンドリンクという二つの橋で結ばれ、通勤・通学・商用・観光等で往来が盛んです。大規模なイスカンダル開発が注目を浴びているエリアでもあります。

■目指す都市のあり方

開会にあたり、マレーシア住宅地方自治局のハリマ副大臣から「2020 年には、ジョホールバル市が様々な局面で主導権を握れる都市となることを目指したい」との抱負が語られました。隣国シンガポールが都市として成長していく過程を見てきたジョホールバル市は、常にシンガポールを自己の未来の姿として目標にし、経済発展だけではなく市民の暮らしの向上も伴った成熟した都市となることを目指しています。会議の発表者からは、「我々の目指すところは GDP の成長だけではない。では、都市の幸せとはどのようなものだろうか」という発言が繰り返し聞かれ、2020 年の世界的先進都市のあり方を模索する都市の様子がうかがえました。

副大臣によるスピーチ

■中心市街地の課題

ジョホールバル市はイスカンダル開発計画上５つのエリアに分けられます。今回の会議では都市化による問題を抱える市の中心市街地（JBCC:Johor Bahru City Centre）の発展にスポットがあてられました。

市役所や中央駅、歴史的建造物が集中する中心市街地は、郊外に人口が流出し中心部が空洞化するドーナツ化現象に直面しています。市の中心を流れるセゲット川（Sungai Segget）の環境汚染や度重なる氾濫も人口流出に拍車をかけています。現在ジョホールバル市では、セゲット川を整備し、賑わいのあるエリアを再生させる計画が進んでいます。

イスカンダル全体図（Iskandar Malaysia Web サイト）

A が中心市街地、B がヌサジャヤ地区

また、同市は治安問題やごみ処理・大気汚染といった環境問題、下水道・交通インフラ整備の遅れ等、都市化の過程で生じる様々な課題に直面しています。今回の会議では二酸化炭素の削減にも焦点があてられ、緑あふれる都市への再生が望まれるといった意見がディスカッションの中で何度も聞かれました。

■海外の都市からの事例紹介

富山市によるプレゼンテーション

海外の事例から学ぶため、日本の富山市からは、市街地の拡散に歯止めをかけ、公共交通を整備して街づくりに取り組むコンパクトシティ戦略が紹介されました。また、1997 年に議決された京都議定書の発祥の地であり、大都市型の環境モデル都市に指定されている京都市からは、歩行者を主役としたまちづくりや、低炭素化に取り組む環境政策の紹介がありました。発表を受けて、会場からは、「コンパクトシティ戦略は、どうしたらマレーシアの都市に適合するだろうか。」などといった討論が行われました。

■併催イベント

不動産開発で注目されるイスカンダル地域らしく、会場の外には、不動産開発業者のブースが設けられ、たくさんの不動産開発業者も来場していました。州をあげてのイベントであったため、ディナーにはジョホール州のスルタン（君主）も出席されました。

ジョホール州のスルタン（中央）も

二日目は視察が行われ、イスカンダル開発地域の中でも開発が進むヌサジャヤ地区等の注目の観光・商業施設であるレゴランド、プテリハーバーやアウトレットモールを訪れました。これらの視察から、観光産業にも注力して発展していこうというジョホールバル市の姿勢が見て取れ

ました。

今後も発展が期待されるジョホールバル市・イスカンダル開発地域に、引き続き注目していきます。

（松田所長補佐　東京都派遣）